

令和4年度 横浜カレッジ 自己評価報告(ダイジェスト)

1. 実施方法

自己評価については、平成25年3月に文部科学省により出された「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り実施。 ※別紙: 令和4年度 横浜カレッジ 自己評価表
以下、項目ごとの課題事項、年度トピックについて概要をまとめた。

2. 評価項目の達成及び取り組み状況

2-1. 教育理念・目標

(1) 教育理念・目標

本校は、学校法人岩崎学園の理念である「人材育成を通じた地域社会への貢献」のもと、①感性の向上 ②高度な技術力の習得 ③豊かな人間性の涵養 ④プレゼンテーション能力の育成の4つを教育目標に掲げ、ファッション、美容、ブライダル分野の人材育成に取り組んでいる。

(2) 将来構想へ向けた体制

岩崎学園100周年を見据えて策定された中期事業計画に基づき、学園本部および姉妹校を横断するプロジェクト(広報統括委員・IR推進委員・DX推進委員・国家試験対策・キャリア開発推進・教育環境整備等)が活動している。本校からは、若手、中堅教職員がプロジェクトメンバーとして積極的に参加し、新しい教育の立案推進に携わっている。

2-2. 学校運営

(1) 運営方針

理事会での学校運営に関する根幹の決定に基づき、3つの重点実施項目を策定し、教育活動を行った。(参照: 自己評価表 P1)

令和4年度は、昨年設置の「マネジメント運営グループ」に加え、効率的な学科運営を行う目的で、学科別の業務グループを新設。教務部全体として組織的に業務が行える体制を整備した。

また、事業計画は、個人の業務計画・目標に落とし込みを行い、期首・中間・期末での振り返りを実施。成果の見える化を基準にグループリーダーと面談を実施し、教職員の育成にも傾注した。

(2) 視覚教材システムの導入と業務の効率化

ビューティースタylist科で Swipe Video(自由視点映像ソリューション)を先行導入し、美容師国家試験の実技対策を実施。(実技分野の合格率: 98.3%と好結果)いつでもどこでも各自の見たい視点で技術の確認ができるため、教員による実技フォローの時間削減・業務の効率化に繋がった。次年度は全学科での導入に着手する。

(3) 働き方、健康管理

前年度に引き続き、新型コロナ感染拡大防止、学生および教職員の安全と健康を守るための、オンライン授業の活用と、教職員の在宅ワークを行った。募集活動に係る休日出勤についても、振替休暇の取得が比較的しやすいように半日勤務を推奨した。

2-3.教育活動

(1)教育課程の編成・実施方針

- ①教育理念・目標を具現化するためアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーをベースに、「学科グランドデザイン」「カリキュラムグランドデザイン」「シラバス」を作成。学科にかかわる常勤・非常勤を含めた教員で共有し、教育内容の明確化と科目横断的な教育効果の向上を図っている。
- ②年 2 回の本校教育分野関連の業界団体・企業等の有識者による「教育課程編成委員会」や、産学連携の取り組みを通して、両グランドデザイン、シラバスの見直しを行い、産業動向や企業ニーズに合わせた教育を推進している。

(2)オンライン授業の推進

LMS であるスタログや基礎学力の向上を図る e-learning 教材(すらら)、学生と教職員のコミュニケーションツール(スラック)を活用したオンライン授業を継続して実施。

LMS では、マイクロラーニングや授業動画を活用した検定試験対策が定着。試験の合格率向上に寄与した。

(3)令和 5 年度に向けた、学科横断的な共通カリキュラムの検討

令和 5 年度の導入をめざし、①学生に分かりやすく、②時代の変化の中でも通用する、③学生と教務双方にとって効率的で運用しやすい等を目的にカリキュラムの再編に着手。

令和 4 年度より、全学科の学生を対象にしたオンデマンド型の資格取得講座を 3 講座「サービス接遇検定 2 級講座」「アロマセラピー検定 2 級講座」「ネットショップ実務士補検定講座」を実施した。次年度は受講者ならびに資格試験受験者数の増加を計画している。

(4)産学連携・インターンシップの体系化

コロナ感染防止策の緩和もあり、対面での活動も再開した。継続的に実施できた産学連携やインターンシップも多数あり、学生には実践的な学びの場となった。

①企業提示の課題による産学連携

- ・横浜高島屋とアーリーマウンテンワークスの連携による、ファッション売り場のディスプレイ、革小物の商品化に取り組んだ。
- ・(株)TFL、瀧定名古屋との連携による3D デザインを活用した企画・商品化への取り組み
- ・ビブレ横浜 T シャツコンテストからの商品化
- ・セブンユニフォームとのユニフォームコーディネーションの取り組み
- ・ウェディング企業(ハイアットリージェンシー横浜/ホテルメルパルク横浜)との協業による結婚式フルプロデュース

②現代の抱える課題や社会貢献につながる取り組み

- ・NPO と連携し熊本の震災時に使用されたブルーシートのリサイクル活動への参加
- ・横浜実践看護専門学校と連携、乳癌患者へのヘアドネーションへ協力

③企業によるイベント協力等での地域振興への協力

- ・元町ファッションショーへのヘアメイクアシスタント協力
- ・地元スポーツチームの試合時の応援イベント支援(フェイスペイント等)

(5)教員研修

教職員には、専門性を高めるための研修と、教授法や学生指導に関する研修を実施し、研鑽を積んだ。また、令和4年度より、学園の制度として、教職員の自主的なキャリアアップを支援することを目的としたキャリアアップ支援制度が設置され、12名が新しい資格にチャレンジし取得した。

岩崎学園中期事業計画では、発想力豊かな人材の育成が掲げられ、そのための1つとしてVTSを取り入れた教育が計画され、ファシリテーター育成のための教員研修がスタートし、本校では1名がファシリテーターとなった。

2-4.教育環境

(1)施設・設備

前年度に引き続き、すべての学科で学生にノートPCを貸与。自宅でオンライン授業が受講できる体制を整えている。また、学内に個室型ワークブースを3台設置し、就職活動におけるオンライン面接等に活用した。他にアパレル業界のDX化に対応し、3Dモデリング技術が学べる環境を整備した。

2-5.学習成果

(1)内部特待生制度

本学園のすべての専門学校に在籍する進級学生を対象に「内部特待生制度」が導入され、令和4年度は11名の内部特待生を選出した。

内部特待生は、本学園姉妹校の学生が横断的に参加するアイデアソンなどのプログラムに参加し知見を広めるとともに、学校情報の発信に寄与。また、校内で行われた学校行事にも率先して参加し、他の学生の模範となっている。

(2)就職実績

進路・就職に対する支援は、岩崎学園全体の就職情報を統括的に管理する部門と教員が連携し、学生の活動をサポートしている。令和4年度も、前年度に引き続きコロナ禍による影響がある中、粘り強く就職活動を実施した。

【令和4年度就職実績】

・就職率:98.0%(就職希望者363名、就職者335名)

(3)時代のニーズに対応した学習の導入

・アパレル業界のDX化を踏まえ、(株)TFLと連携した3Dモデリングの授業を導入。業界では新たな職種として3Dモデリストの育成が課題となっており、本校では実践力養成のため繊維商社と協力のもと3Dモデリングを活用した商品企画と、R5年度実施の展示予約販売の準備を行った。今後は、(株)FMBはじめ企業でのインターンシップで実践力を養い、3Dモデリストとしての就職内定へ発展させていく。

・美容の多様化に対応し、施術者向けのメンズヘアメイク検定初級を創設した。

美容系在校生80名が初級を取得。男女問わず、学生からも美容の可能性の新たな広がり好評。

R5年度に向け、上級の検定の策定に着手。

・ヘアメイク志向者の高まりや、業界ニーズに応え、令和6年度生より、新たな美容師養成学科として「ヘアメイク・アイデザイン科」を開設することにし、準備に着手した。それに伴い、2学科をわかりやすく訴求するために、ビューティースタylist科を「美容師科」に学科名変更を行なう手続きを行った。

・ビューティーコーディネイト科エステティックコースでは、近年のウェルネス分野への関心の高まりを鑑み、身体の内側・外側の両面のケアを意識した生活習慣・健康・運動に関する授業を構築。

令和 5 年度生より、上記カリキュラム変更に伴い、エステティックコースをエステティック・ウェルネスコースにコース名を変更。

(4) 学園横断的な学びの場と起業家マインドの醸成

多彩な専門分野を活かして、本学園7つの専門学校の学生が混成チームで取り組むアイデアソンをはじめ、起業家支援の専門家によるセミナー等が行われ、本校の学生も積極的に参加し学びの幅を広げることができた。また、学園本部主催による、グローバルな視座を養うセミナーや VTS 導入に向けた入門講座、就職活動に向けたコミュニケーション講座など、希望者を対象とした多彩な講座が用意された。

(4) 資格取得・コンテスト

【資格】

学習の目標としてカリキュラムの中に計画的に資格取得を配置し、専門知識、技術の確実な習得をめざすとともに、合格により達成感を体感し、次のステップへの意欲醸成につなげている。

- ①美容師国家試験合格率 89% (実技合格率 98%、筆記合格率 91%)
- ②ビューティースタylist科で令和 2 年度から導入した「ヘアケアマイスタープライマリーコース」は合格率 80%となり全国平均を上回る結果となった。
- ③ビューティーコーディネイト科では、検定対策の一環として、マイクロラーニングを継続。
日本メイクアップ技術検定 1 級合格率 93%
ネイリスト技能検定 2 級合格率 100%
JNA ジェルネイル技能検定上級合格率 94%
エステティシャンセンター試験合格率 100%
AEA 上級認定エステティシャン合格率 87%
- ④ブライダル科では、国家検定であるブライダルコーディネイト技能検定 3 級 合格率 97%
また、昨年に引き続き、全国でも数少ない専門学生の 2 級合格者を 2 名輩出した。
- ⑤ブライダル科のサービス接客検定ロールプレイングの合格率 100%。(公社)実務技能検定協会から、文部科学大臣賞並びに個人日本秘書クラブ会長賞の表彰を受けた。
- ⑥ファッションライフデザイン学科では、洋裁技術検定中級 100% 色彩技能パーソナルカラー検定モジュール 1 の合格率 91% ファッション3D モデリスト検定 3 級 合格率 71%
- ⑦ファッションビジネス科では、ネットショップ検定実務士補 95%、ファッションビジネス能力検定の合格率が 72%

【コンテスト】

コロナ禍の中でも学生の社会的な評価を得る機会として、外部コンテストへの参加を促進。

①ファッション系

・第 19 回ビジネスユースコンペティションに入賞。本コンテストのエントリーは 6 年目となり、学生の目標として定着。

ープレゼン賞 : 高機能 2 way 防災グッズ避難リュックが毛布に早変わりもふっと
MOFUTTO の販売

ーアイディア賞 : お洒落な防災ヘルメットキャップ「PROMET」

②美容系

- ・ケサランパサラン 2022 フォトコンテストで、メイクアップコースの学生がグランプリを受賞。
- ・TONI&GUY STUDENT IMAGE OF THE YEAR 2022 フォトコンテストでグループの作品の1つが総合3位とガモウ賞をダブル受賞。

(4)退学者

退学率 12.7%(前年 10.8%)

IT ツールを活用したコミュニケーションなど、学生との面談機会は確保した一方、コロナ禍で精神的に不安定なまま入学し、特に対面で実習を行う授業に順応できず退学に至った学生が急増した。また、コロナ罹患者が多く、療養による欠席後に休みがちになり欠席超過に至るケースも散見された。

令和5年度は、早期面談の実施、少しの変化も見逃さない声かけを積極的に行い、教員・学校との信頼関係を早期に構築し、非常勤講師を巻き込んだ情報共有や、授業担当以外の教員のサポートも実施しながら退学者の低減に取り組む。

2-6. 学生支援

(1)学生相談

状況ごとにクラス担任、学科リーダー、専門のカウンセラーと複数の人間で対応をしている。

(2)経済的な支援

- ・令和2年度より始まった「高等教育就学支援新制度」の対象機関として認定を受け、学費支援策の枠を広げた。
- ・給付型、貸与型と様々な支援策があり(下記参照)、また、利用者も年々増加傾向であるが、それでも経済的な苦勞を抱える学生は少なくない。

【学費支援策利用状況 人数は延数】

	令和4年度	令和3年度	令和2年度
岩崎学園奨学生制度(貸与型)	9名	11名	9名
日本学生支援機構奨学生(貸与型)	322名	369名	323名
日本学生支援機構奨学生の内、学費分割納入者	177名	186名	202名
日本学生支援機構(給付型)	129名	122名	72名
高等教育の修学支援新制度(授業料等減免)*令和2年度より	127名	120名	72名
岩崎ともみ奨学財団奨学金(給付型)	9名	8名	8名
美容系求人企業奨学金(給付型)	1名	1名	1名

(3)保護者との連携

前期、後期の成績については、学校生活や就職活動についての「保護者へのお便り」とともに書面にて通知している。また、入学ガイダンスやビューティースタylist科・ビューティーコーディネート科の保護者会、学校行事の様子などをオンライン配信した。

(4)防災体制

激甚災害行動マニュアルを策定し運用。

スラックを活用し、台風・降雪等の荒天時の教務部判断を設けて対応。

2-7.学生の受け入れ募集

前年度に引き続き、対面とオンラインのオープンキャンパスを併用しながら学生募集活動を展開。令和5年度の入学生は454名(前年:436名)。

2-8.財務

財務基盤は安定しており、継続的な学校運営に問題ない状況である。

2-9.法令順守

学校の設置や運営に関する法令は遵守しており、神奈川県からの認可を受けている。毎年、学則、カリキュラムの届出と学生数、教職員状況、卒業生状況等の報告を行っている。

個人情報保護については、本学園ホームページで公開している個人情報保護方針に則り行っている。平成 25 年 3 月に文部科学省により出された「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、自己評価を実施。ホームページ上で公開するとともに、学校関係者評価委員会を開催し、専門的かつ客観的な意見を聴取した。また、議事録をホームページ上で公開した。

2-10.社会貢献・地域貢献

(1)学校の教育資源や施設を活用した社会・地域貢献

本学園の姉妹校とも連携しながら、地元プロスポーツチームや地域イベントの活動に参加し、日ごろの学習成果を披露しながら地域社会に貢献。令和 4 年に新たに学生主体で立ち上げたサークル活動などを通じて、社会貢献や地域貢献の活動の企画から実行までを継続的に行うことが課題。

(2)地域に対する公開講座・教育訓練の実施

昨年より再開した、高校生向けキャリア講座(仕事の学び場(4 講座 95 名)、総専協夏期講座(2 講座 33 名))、県立高校のブライダル科インターンシップ(18 名)受入れについて、コロナ感染対策を施し今年度も全て開催した。

以上